

Title	信用リスクの管理に関する一考察
Sub Title	
Author	大村昌弘(Oomura, Masahiro) 太田康信
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1995
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1995年度経営学 第1155号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001995-1155">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001995-1155</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名

大村 昌弘

主査 太田 康信

副査 青井 倫一

姉川 知史

所属

太田 康信 研究室

## 信用リスクの管理に関する一考察

現在、銀行業の業界環境は、大企業の銀行離れや金融の自由化などで、不動産担保金融を中心とした大企業向けの融資額が減少したため、多少のリスクのある融資物件でもそれぞれの融資物件に見合った金利を設定する方法をとって、運用先を開拓していかななくてはいけなくなってきた。しかし、このリスクを評価し、金利として設定する研究はすでになされているものの、いまだ確立されていない。

本論文では、このような問題意識に立って、融資に関わるリスクを信用リスクとおき、実際の企業の財務諸表を用いながら、企業が借入を行ったときに実際に信用リスクがどのように上昇するのかをいろいろな理論を使って検証し、信用リスク評価方法について考察している。具体的には、最初に「リスク」全体の分類および定義をおこない、「融資する側」が判断すべき「融資される側」の信用リスクをどのように評価すべきなのかについて論じる。次に実際の財務諸表を用いて、最適資本構成に関わる各理論で信用リスクを計量するための分析を行い、結果について考察を加える。